

飯田東RC × 下伊那農業高校 IAC

自主性を尊重し、引き出す

飯田東RC 青少年奉仕委員会インターアクト担当 後藤 高一

17年前から毎年4月29日、当クラブが飯田市の水源地帯である松川入りで行っている植樹活動に、しもいな下伊那農業IACの生徒たちが数年前から参加、ロータリアンと共に、枝打ちや間伐などのメンテナンス作業を行うようになりました。作業後

には、テントの下で一緒に食事を楽しみます。植樹活動で出た間伐材を利用して、地区補助金で「コカリナ(小型の笛)」を製作し、下伊那農業高校IACへ寄贈したところ、インターアクターたちは、老人福祉施設の訪問の際に演奏したり、植樹の時に、間伐材の故郷である松川入りでも美しい音色で演奏したりするようになりました。

毎年11月(昨年度は2月)には、ロータリアンとインターアクター、顧問の先生との交流・親睦を深めるため、ボウリング&焼き肉大会を開催しています。ボウリングで汗を流し、焼き肉をおいしくいただくこの会は、生徒たちの楽しみになっています。さらに、インターアクトクラブの地区大会にロータリアンが参加したり、地区大会や飯田東RCの例会にインターアクターが参加したりと、相互参加を続けています。



接し、生徒たちの「まじめさ」には驚いています。自分は高校時代、福祉や奉仕などほとんど考えたことがありませんでした。インターアクトクラブに所属すること自体、



また、第2600地区で2014—15年度まで実施されていた海外研修がなくなり、その代わりとしてインターアクトクラブ単位で独自に研修を計画し、その内容に応じて地区から補助金が支給される仕組みとなりました。そこで、生徒の希望を反映して、東日本大震災の被災地・石巻市での研修を計画し、多くの生徒が参加しました。まだ傷痕の癒えない現状を目の当たりにし、インターアクターたちは大きな衝撃を受けたようで、研修後も被災地の人たちと交流を続けています。また、日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)の活動に協力、販売できた分だけイラクを支援できることになるチョコレートの袋詰め作業を、毎年ロータリアンとともにしています。

インターアクターと顔を合わせるの、会員は年2～3回、インターアクト委員では年7～8回です。顧問の先生とは、独自研修の内容検討で2～3回打ち合わせをし、校長先生へのあいさつや各行事の事前打ち合わせも行っています。学校にロータリークラブへの理解を深めてもらうために、毎年ではありませんが、インターアクトクラブの例会で、ロータリークラブやインターアクトクラブの成り立ち、役割などについての勉強会を実施しています。

一緒に活動する際は、あまりこちら側の論理を押し付けないように注意しています。言い換えれば、生徒の自主性を尊重し、引き出すことを意識しています。彼らと

高校生としては素晴らしいことです。また、元々女子生徒が多いクラブでしたが、近年、男子生徒が増えていることにもうれしい驚きを感じています。(第2600地区 長野県)

下伊那農業高校IAC顧問 塩澤 直美先生

下伊那農業高校では、入学時に1年生向けのクラブ説明会があります。そこでインターアクトクラブについて説明する際、ロータリークラブがスポンサーだからこその活動の広がりなどを、IAC会長が丁寧に説明しています。これによって、多くのロータリアンに見守られて活動させてもらっているという意識

が芽生え、独りよがりにならずに、積極的に活動に取り組む姿勢が育つと思われます。

そしてなによりも、ロータリアンとの合同例会などで、自分たちのことやインターアクトの活動を大切に育ててくれる大人の姿を目の当たりにすることが、身近なところから世界へと思いをはせるきっかけになっているのだと思います。